

# 交付運用報告書

この冊子を読むことでファンドの運用成績を確認できます。  
受益者のみなさまの投資判断の一助として是非ご活用ください。

## JASDAQオープン

### 追加型投信／国内／株式

第24期末（2018年9月18日）	
基準価額	19,373円
純資産総額	3,940百万円
騰落率 (上昇率・下落率)	+6.1%
分配金合計	450円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

第24期（決算日：2018年9月18日）

作成対象期間

(2017年9月20日～2018年9月18日)

信託期間を従来の2019年9月16日から2024年9月13日へ延長しました。

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、JASDAQ上場株式を主要投資対象とし、中長期的に成長が期待できると判断する銘柄を個別に選定することにより、JASDAQ INDEXを上回る投資成果をめざして運用を行ってまいります。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で閲覧できます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社まで、お問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧およびダウンロード方法>

- ①右記ホームページにアクセス
- ②「基準価額一覧」もしくは「ファンド検索」から当ファンドを検索し、選択
- ③ファンドの詳細ページで運用報告書（全体版）を選択



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用  
フリーダイヤル **0120-151034**  
(受付時間：営業日の9:00～17:00、  
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

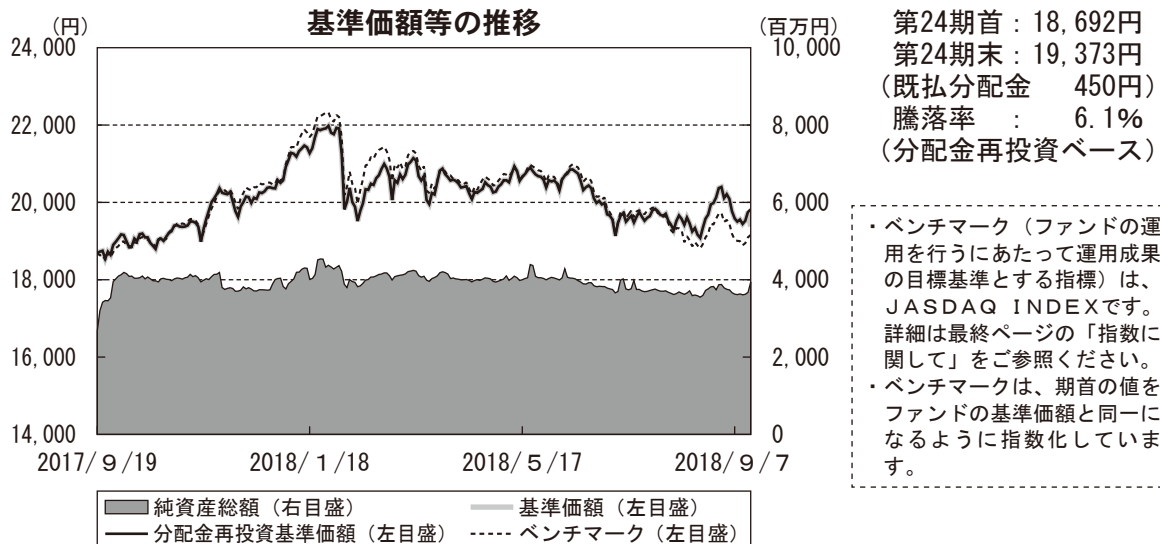
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

## 運用経過

## 当期中の基準価額等の推移について

(第24期：2017/9/20～2018/9/18)

基準価額の動き	基準価額は期首に比べ6.1%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。
ベンチマークとの差異	ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（2.5%）を3.6%上回りました。



- ・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

## 基準価額の主な変動要因

上昇要因	組み入れを行った個別銘柄の株価上昇が基準価額の上昇要因となりました。
------	------------------------------------

## 1 万口当たりの費用明細

(2017年9月20日～2018年9月18日)

**i** 記載された金額は、期間中にファンドを介して受益者のみなさまが間接的にご負担いただいた費用です。

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	286円	1.420%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数)
(投信会社)	(134)	(0.667)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販売会社)	(130)	(0.645)	交付運用報告書等各种書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(22)	(0.108)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	18	0.088	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株式)	(18)	(0.088)	
(c) その他費用	1	0.003	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	305	1.511	
期中の平均基準価額は、20,126円です。			

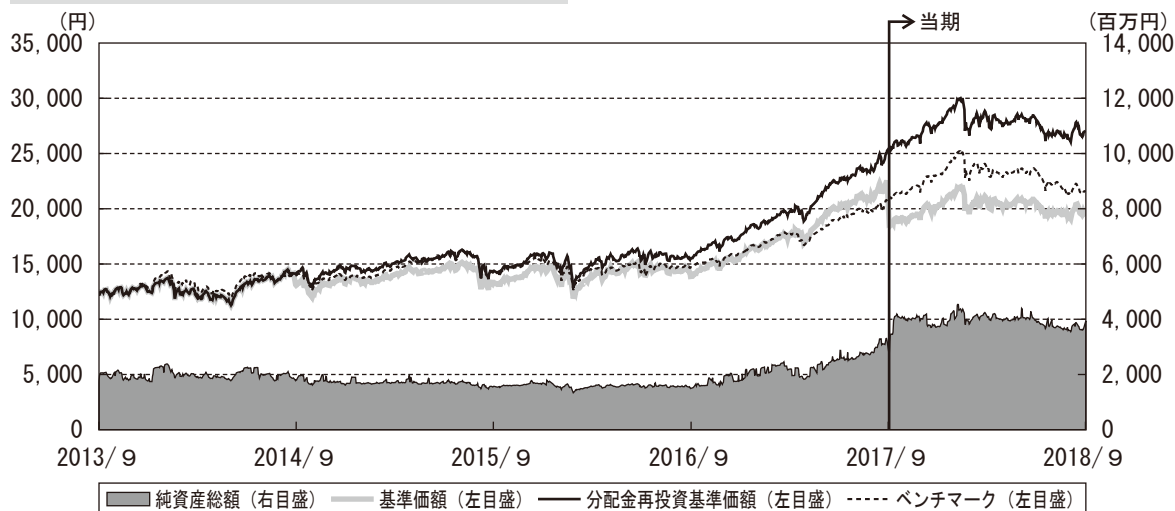
(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について

(2013年9月17日～2018年9月18日)



・分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2013年9月17日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

## 最近5年間の年間騰落率

	2013/9/17 期初	2014/9/16 決算日	2015/9/16 決算日	2016/9/16 決算日	2017/9/19 決算日	2018/9/18 決算日
基準価額 (円)	12,121	13,121	13,207	13,878	18,692	19,373
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	1,000	50	500	4,100	450
分配金再投資基準価額騰落率	—	16.5%	1.0%	8.9%	64.2%	6.1%
ベンチマーク騰落率	—	15.4%	1.7%	3.4%	43.5%	2.5%
純資産総額 (百万円)	1,757	1,777	1,547	1,491	2,677	3,940

・ファンド年間騰落率は、ベンチマーク年間騰落率と比較するため、収益分配金 (税込み) を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

ベンチマークは、JASDAQ INDEXです。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

## 投資環境について

(第24期：2017/9/20～2018/9/18)

## ◎ JASDAQ市況

- ・ 株式市況は国内企業業績が堅調に推移していることや2017年10月には衆議院選挙で与党が勝利したことなどから期首から2018年1月下旬まで上昇基調が続きました。
- ・ 2月上旬発表の米国雇用統計などを受け、米国長期金利が上昇したことなどから世界的な株安となりました。その後も米中の貿易摩擦懸念などから、上値の重い展開が続きました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

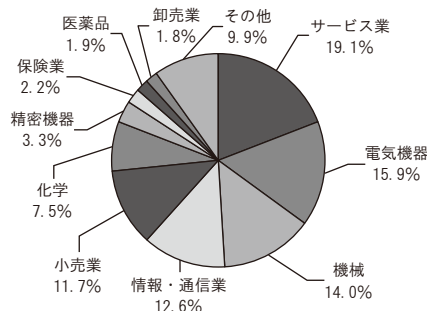
**i** 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

- ・ JASDAQ上場株式のうち独自の技術やノウハウを有し、中長期的な成長が見込める企業などを中心に選別投資を行っています。
- ・ 組入銘柄は概ね58銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相対比較等を勘案し、適宜銘柄を入れ替えました。期首、期末の比較では、工業用貴金属製品の製造・販売を手掛ける「フルヤ金属」など、5銘柄を新規に組み入れました。またJASDAQから市場変更があった「エン・ジャパン」、「トリケミカル研究所」などを含め、7銘柄を全株売却しました。

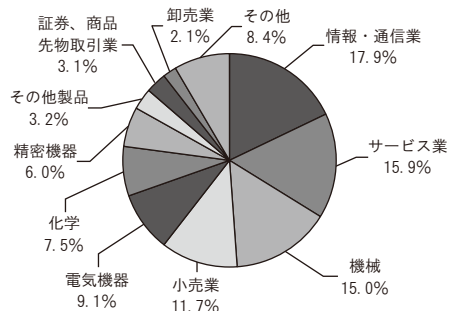
## (ご参考)

## 組入上位10業種

期首 (2017年9月19日)



期末 (2018年9月18日)



(注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異について

**i** ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

- ・ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(2.5%)を3.6%上回りました。
- ・当期は、主として「放電精密加工研究所」や「U L Sグループ」などの銘柄選択が寄与しました。また、業種配分効果としてはサービス業をベンチマーク対比オーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。
- ・特に、寄与、影響が大きかった銘柄は以下の通りです。

(プラス要因)

### ◎銘柄

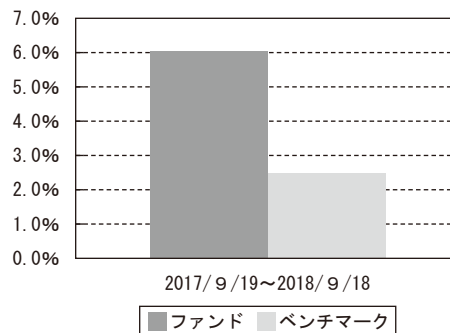
- ・放電精密加工研究所：金型や機械部品等の受託製造並びに販売などを手掛けています。航空機エンジン部品事業の拡大による業績伸長を期待し、期首より保有しました。堅調な業績が期待されたことなどから株価は上昇しました。ベンチマーク対比でも期首よりオーバーウェイトとしていたことから、パフォーマンスにプラスに寄与しました。
- ・U L Sグループ：主に企業のIT投資領域におけるコンサルティングや受託開発などを手掛けています。IT投資需要の拡大による業績拡大を期待し、期首より保有しました。好調な業績などを背景に株価は上昇しました。ベンチマーク対比でも期首よりオーバーウェイトとしていたことから、パフォーマンスにプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

### ◎銘柄

- ・鈴茂器工：寿司用米飯加工機械などの製造販売などを手掛けています。同社の「寿司ロボット」などの拡大に期待して期首より保有しました。業績が伸び悩んだことなどから株価は下落しました。ベンチマーク対比では期首よりオーバーウェイトとしていたことから、パフォーマンスにマイナスの影響となりました。
- ・フロント産業：主に医薬品や食品などのさまざまな分野向けに造粒、コーティング装置や医薬品添加剤などの製造、販売などを手掛けています。医薬品向け造粒、コーティング装置に着目し、期首より保有しました。2018年2月期第3四半期決算において業績が伸び悩んだことなどから株価は下落しました。ベンチマーク対比では期首よりオーバーウェイトとしていたことから、パフォーマンスにマイナスの影響となりました。

基準価額とベンチマークの対比 (騰落率)



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

## 分配金について

**i** 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】 （単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第24期
	2017年9月20日～2018年9月18日
当期分配金	450
（対基準価額比率）	2.270%
当期の収益	—
当期の収益以外	450
翌期繰越分配対象額	9,373

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### ◎運用環境の見通し

- ・2018年度の企業業績は全体的に堅調なものを想定していますが、第1四半期決算発表後、堅調な業績推移であったにもかかわらず、株価が下落する銘柄が多くみられました。しかしながら、今後堅調な業績推移が確認されることで、再評価が進む展開を想定しています。引き続き保有銘柄を中心に今後の業績動向の推移進捗を注視したいと考えております。
- ・堅調な企業業績を背景に今後の株価動向も堅調に推移すると考えていますが、特に米中の貿易に関する問題など国内外のマクロ環境には不安定要素があり、今後の動向に注意が必要だと考えております。
- ・ここ数年の株価上昇において、小型株の上昇は大型株を上回るものでした。しかしながら、日本の小型株市場はまだまだ非効率的で、投資家に十分に認知されていない成長企業は多く存在すると考えており、こうした企業への注目度が高まることにより投資機会は拡大すると考えています。

### ◎今後の運用方針

- ・主としてJASDAQ上場株式に投資します。各調査機関の企業調査データの活用や企業訪問などを通じ、中長期的に成長が期待できる企業に積極的に投資します。
- ・技術力や経営資源だけでなく、事業環境の変化に対し明確な意思決定と強いリーダーシップを持つマネジメント力によっても、企業価値を継続的に高めることが可能と考え、このような企業にも積極的に投資する方針です。



## お知らせ

**i** 受益者のみなさまに知っていただきたいファンドに関するお知らせを掲載しています。

## ◎約款変更

- ・信託期間を従来の2019年9月16日から2024年9月13日へ延長し、信託約款に所要の変更を行いました。(2017年12月19日)
- ・当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。(変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/>→変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>) (2018年1月1日)

## ◎その他

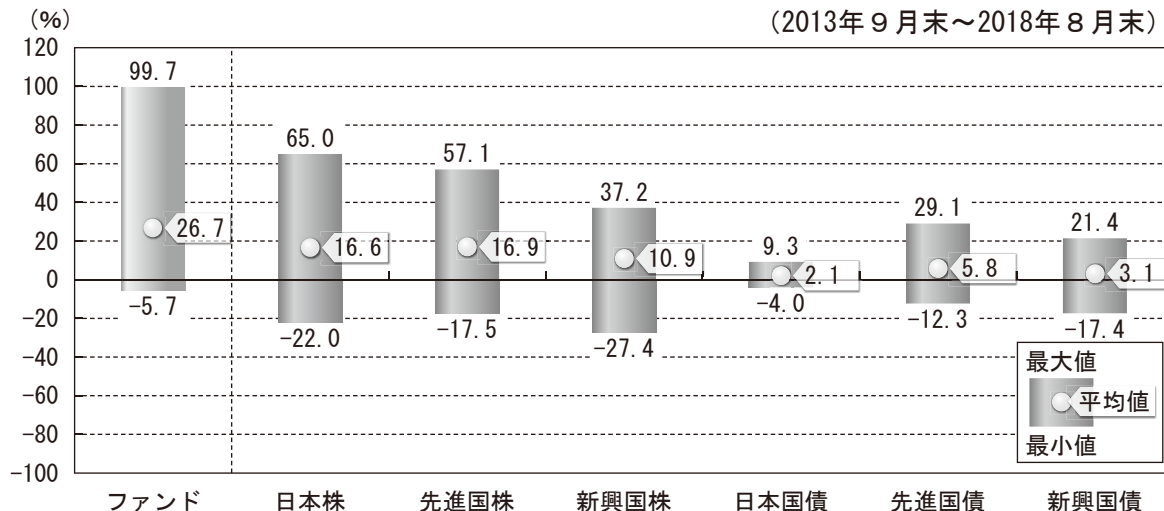
- ・本資料内における旧シティ債券インデックスは、ブランド変更に伴い、FTSE債券インデックスの名称に変更しています。
- ・2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%(法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。))の税率が適用されます。

\*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>)にて開示を行っている場合があります。

## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2024年9月13日〔当初、2019年9月16日〕まで(1994年10月14日設定)
運用方針	JASDAQ上場株式へ投資し、信託財産の成長をめざします。運用にあたりましては、JASDAQ INDEXをベンチマークとしてアクティブ運用を行います。
主要投資対象	JASDAQ上場株式を主要投資対象とします。
運用方法	JASDAQ上場株式を主要投資対象とし、中長期的に成長が期待できると判断する銘柄を個別に選定することにより、JASDAQ上場銘柄の指標であるJASDAQ INDEXを上回る投資成果をめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

## ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2013年9月から2018年8月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

### ○各資産クラスの指数

- 日本株 : TOPIX (配当込み)
- 先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
- 新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
- 日本国債 : NOMURA-BPI (国債)
- 先進国債 : FTSE世界国債インデックス (除く日本)
- 新興国債 : JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ・全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ・ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。
- ・騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

## 当該投資信託のデータ

### 当該投資信託の組入資産の内容

(2018年9月18日現在)

#### 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：58銘柄)

	銘柄	種類	国	業種/種別	比率
1	日本マクドナルドホールディングス	株式	日本	小売業	6.0%
2	U Tグループ	株式	日本	サービス業	3.8%
3	ナカニシ	株式	日本	精密機器	3.3%
4	ハーモニック・ドライブ・システムズ	株式	日本	機械	3.1%
5	ラック	株式	日本	情報・通信業	3.0%
6	GMOフィナンシャルホールディングス	株式	日本	証券、商品先物取引業	2.9%
7	夢の街創造委員会	株式	日本	情報・通信業	2.8%
8	インフォコム	株式	日本	情報・通信業	2.5%
9	日特エンジニアリング	株式	日本	機械	2.5%
10	カルトラファブリス・ホールディングス	株式	日本	化学	2.5%

- ・比率は純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

#### 純資産等

項目	第24期末 2018年9月18日
純資産総額	3,940,363,455円
受益権口数	2,033,932,062口
1万口当たり基準価額	19,373円

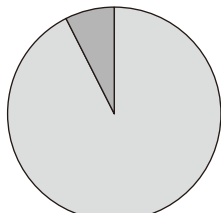
- ・当期中において  
追加設定元本は 4,873,270,994円  
同解約元本は 4,271,903,513円です。

#### 種別構成等

##### 【資産別配分】

コール・ローン等

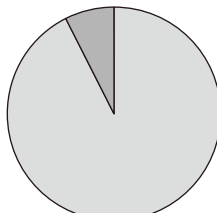
7.5%

国内株式  
92.5%

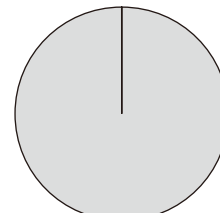
##### 【国別配分】

その他

7.5%

日本  
92.5%

##### 【通貨別配分】

円  
100.0%

- ・比率は純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

## 指数に関して

### ○ファンドのベンチマークである『JASDAQ INDEX』について

JASDAQ INDEXとは、JASDAQ上場の内国株券全銘柄を対象として時価総額加重平均方式に基づき算出される株価指数です。

### ○「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

#### TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数（TOPIX）に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX（配当込み）に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の停止またはTOPIX（配当込み）の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

#### MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

#### MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

#### NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPIとは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（国債）はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI（国債）は野村證券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

#### FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。